非核・いしかわ

〒920-0848 金沢市京町 28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

2020 年 12 月 20 日　月刊第 269 号

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は 85 か国、批准は 50 か国（12 月 15 日現在）

1 面　核兵器禁止条約発効おめでとうアクション
2 面　2020 年日本平和大会・参加報告　柴原和美
4 面　「日米開戦の日」について考える　須藤春夫
4 面　編集者・大川陽一さんが語る「記憶の灯り 希望の宙へ」　神田順一
5 面　石川県内に残された「戦争碑」と憲法　佐藤公男
6 面　対米従属の起源　西谷公作
〝ついに実現〟子どもの医療費窓口無料化　中谷松助
7 面 ＜独標＞ サイタ　サイタ　新保美恵子
非核・平和の掲示板
8 面　いしかわの戦争遺跡めぐり　中西　優
絵手紙コーナー　広瀬勝子
被爆証言紙芝居

核兵器禁止条約 発効 おめでとうアクション

2021 年 1/17[日] 10 時～11 時
@近江町市場 エムザ口付近

2021 年 1 月 22 日、核兵器禁止条約の発効日に向けて、反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会では、1 月 17 日に「おめでとうアクション」を開催します。「おめでとうメッセージリレー」や思い思いのプラカードやバナーを掲げた「スタンディングアピール」で一緒に喜び合いましょう！！詳細は同封のチラシをご覧ください。

※感染症対策として、ご参加希望の方は下の注意事項を必ずお読みください。

【ご参加されるみなさまへのお願い】
◇参加をご希望の場合は、1 月 12 日までに同封チラシ記載の事務局までご連絡ください。
◆当日はマスクの着用をお願いします。
◇当日の検温にご協力ください。37.5℃以上の発熱がある場合には、申し訳ありませんが、参加をご遠慮ください。
◆活動の際は、ソーシャルディスタンスにご配慮ください。
◇参加者名簿の作成にご協力ください。

【主催】
反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会

花鳥風月

一二月八日を前に考えた。一九四一年その日の朝のラジオ放送をもし自分が聞いたらどう思うか。いよいよ始まったかと気を引き締めただろうか。緒戦の戦勝報道に浮かれただろうか。それとも先の見えない不安に駆られただろうか▼学校で戦争について学んだ時、親になぜ戦争に反対しなかったのかと問うて、反対なんかできる訳がないと一言で片づけられた。戦時の国民はひどい目にあったが、侵略した他国民衆に加害者として振る舞ったのも事実だ。では当時の一般国民に戦争の責任が本当にあったのだろうか▼浅田次郎は小説の中で、闇市に立つ帰還兵に「眼も耳もそがれて考えることもできなかった。内地では食えなくしといて満州に駆り出された。軍隊は理不尽な命令でも〝上官の命令は朕の命と思え〟と絶対服従を叩き込まれた。そのどこに責任があるのか」と語らせた▼あの日から七九年が経過した。政権が庶民の生活を削って戦争の準備を進めようと誰もが知るようになった今、声をあげないままで流されたとすると後世に責任が生ずる。「知らないうちに戦争がやってきた」、今年七月に亡くなられた茹昭三先生の痛苦の教訓であった。自分の子や孫らに知らなかったからとは語れまい。（Ｉ記）

【参加報告】

二〇二〇年　日本平和大会オンライン・全体集会

軍事的な安全保障から「人間の安全保障」へ

石川県平和委員会・事務局長　柴原和美

一一月二一日、「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地２０２０年日本平和大会」がオンラインで開かれた。全国で五〇〇ヵ所、県内でも五ヵ所の会場で視聴がおこなわれた。これまで、日本平和大会は、沖縄や神奈川など国内の米軍基地のあるところで開催されてきた。オンラインという形態での開催は勿論初めての試みである。

今回の平和大会には、交通費などの費用がかからないこともあり、県内からは昨年の沖縄での大会参加者の二・五倍の一八人の視聴参加となった。

主催者挨拶

市民の力で政治を変えることはできる

日本平和委員会の千坂純事務局長が、主催者報告で「新型コロナ感染の危機の下、世界と日本の進路が問われている」として、その中で「核兵器禁止条約が来年発効することで、核保有国とその軍事同盟国は孤立を深めざるを得ない。核兵器と軍事対決の悪循環からの脱却の方向こそ未来がある」と展望を述べた。また、菅政権がすすめる沖縄・辺野古や鹿児島・馬毛島での基地建設のごり押しや「敵基地攻撃」の具体化、日本学術会議の会員任命拒否などを批判し、「背景にある日米軍事同盟からの離脱を今こそ求めていこう」と強調。そして、「異常な米軍優先国家のあり方の是正を求める」取り組みや「日米地位協定抜本改定を求める運動を広げる」「市民と野党の連合政権を創り出す」などの取り組みを強めようと提起した。

海外代表の発言

米国の危険な戦争準備を阻止するために

アメリカのブルース・ギャグノン氏（宇宙空間における兵器および原子力に反対するグローバルネットワーク・コーディネーター）は、「バイデン政権となっても、『ミサイル防衛』システムでロシアと中国を包囲し、核戦争を起こすこともいとわない方向が維持されるだろう」と述べ、危険な戦争準備を拒否するために、「アジア太平洋地域はじめ世界中の平和を求める人々が環境保護や社会正義の運動と力を合わせること」を強調した。

勝利への道は決してあきらめないこと

フィリピンのコラソン・ファブロス氏（非核フィリピン連合事務局長）は、「二八年前に米軍基地を撤去させたが、中国封じ込めを目的に米国海軍艦船を修理する施設を建設し戻ってこようとしている。挫けずに、勇気と希望を持って抵抗を続けていこう」と述べた。

人間の安全保障にもとづく平和的協力の枠組みづくり

韓国のイ・ジュンキュ氏（韓信大学統一平和研究院上級研究員）は、「朝鮮半島の平和プロセスは、非核化と朝鮮戦争の終息・平和協定を結ぶなど平和体制の構築だ。また、そのためにも民衆の運動が重要。日韓の市民社会が、軍事同盟や基地再編などに立ち向かい平和的協力の枠組みをつくることが求められる」と強調した。

ゲストスピーチ

コロナ禍で生まれてきた「共感の芽」を大切に

ゲストからのスピーチは、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんは、新型コロナの影響で在留資格のない人たちは給付金を受け取れず、病院にも行けない状況にあることなどを紹介し、難民問題は他人事ではないという共感を育てていきたいと語った。

いのちや生活を守ることができる政治の選択肢を

上智大学教授で「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」呼びかけ人の中野晃一さんは、市民連合として野党に政策要望（注）を提案したが、誰もが命と生活を守れる政治の選択肢をつくっていきたいと述べた。

（注）一〇月一九日、市民連合が発表した「立憲野党の政策に対する市民連合の要望書　いのちと人間の尊厳を守る『選択肢』の提示を」は三面に掲載。

菅政権による平和と憲法の破壊に正面からたちむかう

日本学術会議会員任命拒否された東京慈恵会医科大学教授の小沢隆一さんは、法治主義を破壊し人事権による強権支配は憲法の危機であり、平和と憲法の破壊に正面からたたかっていくと力強く決意を述べた。

全国の草の根から

【沖縄からの報告】

・辺野古新基地建設

・陸上自衛隊の地対艦ミサイル配備

全国からの報告では、沖縄から辺野古新基地建設や陸上自衛隊の地対艦ミサイルの配備が狙われている宮古島、石垣島の状況を報告。沖縄県平和委員会の上野代表理事は、辺野古新基地の国による工事設計変更申請に対する意見書が全国から一万八九〇四件届いたと報告。辺野古で座り込みをして抗議する九二歳の女性の「日本はまたあの戦争を、沖縄戦をしようというのですか。日本をこのままにして死ねない」との言葉を紹介し、「沖縄を二度と戦場にしないという決意をひきついで、世界から戦場をなくしたい」と訴えた。

【鹿児島・馬毛島からの報告】

・米軍空母機離発着訓練のための基地建設

鹿児島県の「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」の迫川事務局次長は、米空母艦載機の離着陸訓練が、三万人が生活する種子島から一〇キロのところで、深夜三時まで行われてくる」と批判。反対署名が西之表市民の四割の六一四二人分、全国で三〇万三五二三人分が集まったことを示し「勝つためにはあきらめず、活動していきたい」と決意表明をおこなった。

【横田、首都圏からの報告】

・オスプレイの配備と飛行訓練

横田基地の現状について東京平和委員会が、銃口を下にむけた米空軍のCV22オスプレイの飛行訓練、C130輸送機の低空飛行やパラシュート降下訓練を映像で報告した。

「オスプレイはいらない」千葉県署名推進委員会の金光さんは、木更津駐屯地に陸自オスプレイが配備され、米海兵隊オスプレイの整備拠点だと告発し、「関東一円でオスプレイが飛び回ることになる」と訴えた。

防衛大学校の人権侵害裁判からの訴え

福岡と神奈川でたたかわれている防衛大学校での暴行などいじめ裁判について原告と弁護士が報告。国に損害賠償を求め福岡高裁で争っている元学生の男性の母親が「同じ思いをさせたくない」と声を詰まらせながら発言。「反省も謝罪もできない組織を憲法に明記することは許されない」と訴えた。

いのちと暮らし最優先の政治を

民青同盟埼玉県委員会、北海道医労連、全日本教職員組合の代表が、コロナとのたたかい、政府の教育介入に反対するとりくみなどを報告。「武器でウイルスはなくせない。医療で命を守り、人間らしく暮らせることを保障するのが本当の安全保障だ」と訴えた。

来年の日本平和大会は、今年コロナでできなかった東京での開催を一一月一九日、二〇日に予定している。

【資料】　立憲野党の政策に対する市民連合の要望書（抜粋）

Ⅳ.世界の中で生きる平和国家日本の道を再確認する

13. 平和国家として国際協調体制を積極的に推進し、実効性ある国際秩序の構築をめざす。平和憲法の理念に照らし、「国民のいのちと暮らしを守る」、「人間の安全保障」の観点にもとづく平和国家を創造し、WHOをはじめとする国際機関との連携を重視し、医療、公衆衛生、地球環境、平和構築にかかる国際的なルールづくりに貢献していく。核兵器のない世界を実現するため、「核兵器禁止条約」を直ちに批准する。国際社会の現実に基づき、「敵基地攻撃能力」等の単なる軍備の増強に依存することのない、包括的で多角的な外交、安全保障政策を構築する。自衛隊の災害対策活動への国民的な期待の高まりをうけ、防衛予算、防衛装備のあり方に大胆な転換を図る。

非核・平和のひろば

「日米開戦の日」について考える

須藤春夫

12・8平和のつどいにて

今日の12・8平和を守るつどいの開催趣旨は、演題にあるように「太平洋戦争開戦七九周年から何を学ぶか」です。今日は「日米開戦の日」と言われているが、私は少し違和感があります。プロ野球やJリーグでは「開幕」ですが、「開戦」や「開幕」という言葉には両方が対等の立場でゲームが始まるようなイメージがあります。しかし真珠湾を奇襲攻撃したのは日本です。戦争はゲームではなく、戦争を仕掛け、戦いに導く勢力が必ず存在します。大事なことは、この「日米開戦」の意味をどのように正確に伝えていくのかです。

今朝の朝日新聞のタイトルは「日米開戦　今年で七九年」ですが、主な記事は戦争に従事した方の回顧録に終わっている。そこでは戦争の悲惨さはわかるが、誰が戦争を起こしたのか、戦争の責任にふれることは一切ありません。一方、東京新聞（北陸中日新聞）の今日の社説は「鶴彬獄死の末にある戦――開戦の日に考える」です。鶴彬が言論弾圧にあって獄死したことと、今の菅政権による学術会議任命拒否、学問の自由への権力の介入が戦争への道につながることをきちっと指摘している。東京新聞も「開戦」の文言を使っているが、この開戦がどのように引き起こされたかを社説では次のように述べている。

「安倍前政権以降、日本学術会議の会員人事への政府の介入や、政府に批判的な報道や表現の自由への圧力が続きます。今年は戦後七五年ですが、戦後ではなく、むしろ戦前ではないかと思わせる動きです。戦後制定された憲法の平和主義は、国内外に多大な犠牲を強いた戦争の反省に基づくものです。戦争の惨禍を二度と繰り返さない。その決意の重みを、いつにも増して感じる開戦の日です。」

このように学問や言論、表現に対する弾圧は、戦争への道につながることが歴史の教訓であることを明確に示しています。

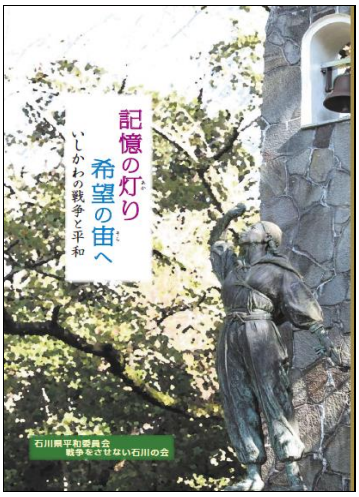
「開戦の日」には、先の戦争がどのように進んでいったのか、現在の私たちの足元と地続きであること、そのことを併せて考えていかなければならないと思います。残念ながら全国紙ではこのような視点で論説しているところはありません。戦争から遠ざかっている感じがあります。その意味では12・8のつどいで、「開戦の日」についてお互いに認識しあうことが大切です。

◎編集部より…本稿は一二月八日、石川県平和と労働会館で開かれた「12・8平和を守るつどい」での須藤春夫氏（戦争をさせない石川の会事務局長）の主催者挨拶です。

編集者・大川陽一さんが語る『記憶の灯り　希望の宙へ』

「むぎわらぼうし例会」にて

戦跡ガイドブック『記憶の灯り　希望の宙へ』のねらいと概要など、全体像は目次の見開きのページに掲載しました。明治維新から現在までの一五〇年の中から「一五年戦争」と「戦後」に絞って編集しました。「一五年戦争」とは一九三一年の満州事変から一九四五年の敗戦まで。



このような編成になった経緯は、二〇一八年一二月に「いしかわの戦争と平和」編集委員会が発足した当初は、以前に県平和委員会が刊行した「石川県平和ガイドMAP」及び「戦争と金沢」の改訂版を作成する予定でした。ところが二〇一九年三月頃、戦争をさせない石川の会呼びかけ人の茹昭三先生から「戦跡マップの改訂版だけでは手にした人が、『あのような戦争は二度と起こしてはいけない』と胸の底からの決意に至らないのではとの指摘がありました。むしろ先の大戦、「一五年戦争」の意味を再確認してもらった上で石川県内の戦跡を紹介してはどうか、との提案でした。私たち編集委員会メンバーも賛同して、「一五年戦争」に焦点を当て、「加害の歴史」及び「被害の歴史」につき、キーワード毎に記述しました。

本文に入る前に明治維新からの一五〇年を辿る「年表」を戦前七五年、戦後七五年に分けて掲載しました。年表で特に重視したのは一九三一年から一九四五年までの「一五年戦争」です。この以前から朝鮮や台湾など日本が植民地支配した時代があり、その延長線上に「一五年戦争」があり、満州事変から日中戦争、そしてアジア・太平洋戦争へと侵略戦争に突き進んでいったこと。また戦後編で大事なところは、平和憲法が制定されたがすぐに戦前に回帰する、逆流の動きが生まれ、今に至っていることです。一九四五年八月一五日、敗戦になりましたが、私は、日本のこれまでの一五〇年間は戦争状態のままと思っています。そのことを念頭においてこれを読んでいただきたいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・

その後、本書のPDFデータにもとづき、ポイント解説があり、参加者との意見交換がありました。参加者からは「編集者の方々の大変なご努力に感謝と敬服します」「戦争や今の平和問題がより自分と地続きであり、時間的にも繋がっていることを再認識しました」「学校の教科書でわからなかった民衆の歴史がよく理解できた」「戦跡ガイドブックとして貴重な参考図書になる」「絵や詩や写真も素敵でした」「この冊子をもとに学習会や戦跡めぐりができないか」と高い評価がありました。また、編集委員会への要望として「中学生が読めるようなガイドブックの作成」「戦跡マップの最新版」「ウェブ検索を可能に」等々、寄せられました。　（まとめ　神田順一）

◎一二月五日、近江町交流プラザで開かれた平和サークル「むぎわらぼうし」例会の報告です。

石川県内に残された「戦争碑」と憲法

佐藤公男

『記憶の灯り　希望の宙へ』に掲載された戦後建立の戦争碑には様々な文言があります。石川護国神社（金沢市出羽町）大東亜聖戦大碑の「聖戦」、皆月海軍望楼（輪島市門前町）旧海軍望楼跡の「太平洋戦争」、小松海軍航空隊予科練之碑（加賀市新保町）の「太平洋戦争」、機雷戦災者之碑（輪島市門前町）戦災者之碑の「大東亜戦争」などの表記です。碑文の多くが天皇制思想（太平洋戦争・大東亜戦争）などの表記で、戦前・戦後を通して日本国民の生死観や生活の中に無意識にとどまっていた「歴史認識」を知ることができます。

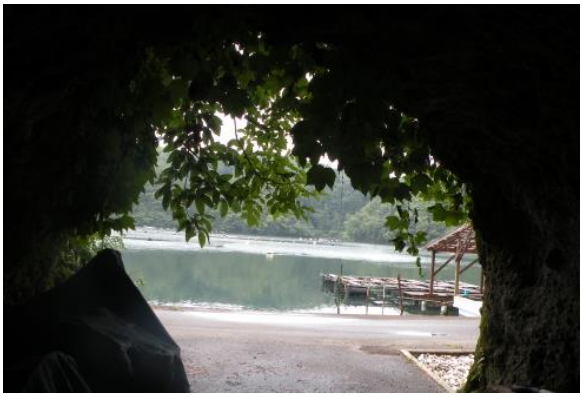
旧海軍潜水学校七尾分校之碑＝穴水町中居

先の戦争を、聖なる戦い「聖戦」であると賛美する聖戦大碑は、再び戦争への道を開き日本国憲法の精神から逸脱するもので容認できません。

その中で特筆すべきは旧海軍潜水学校七尾分校之碑（三二頁）です。この碑は中能登町に生まれ旧満州国の関東軍司令部に勤務し、戦後は北陸中日新聞記者を務めた道善兵一郎氏など、普通科潜航術水雷分隊ベントの会有志が一九九九（平成一一）年春に建立したものです。

碑文には、「一九四五（昭和二〇）年八月、アジア・太平洋戦争の敗戦を、穴水町中居で迎えた。（中略）私達の体験を形あるものとして次代に伝えようと穴水町の協力を得、ここに不戦の誓いも新たに、反戦平和の訴えのシンボルとしての記念碑を建立した。日本と世界の人々に、発信しつづけるであろうことを確信する」とあります。

つまり、先の戦争を実態に即して「アジア・太平洋戦争」と規定し、反戦平和の記念碑として日本と世界に発信しています。道善氏は新聞社のインタビューで「二度と戦争国家になってはいかん。良い戦争も悪い戦争も全ては後から理屈を付けられる。戦争は絶対に反対です」と結んでいます。道善氏やベント会有志の平和憲法を希求する言葉が刻まれた「旧海軍潜水学校七尾分校之碑」を訪ねたいものです。


魚雷格納庫跡＝穴水町麦ヶ浦

『記憶の灯り　希望の宙へ』には新発見の戦争遺跡の紹介がありますが、その中の一か所が、穴水町麦ケ浦に建設された水中特攻「蛟龍」基地です。

海軍潜水学校生の一部が地元の民家に分宿し、極秘に基地建設に従事しました。防衛研究所に残された「舞鶴海軍施設部引渡目録」に二二㍍魚雷格納庫（未完成）が四本、魚雷調整所や六一五㍍専用道路が建設されたとあり、「蛟龍」は約一一〇隻が配備され本土決戦に備えていました。「命を軽視する戦争に未来はない」はNHK朝ドラ「エール」のセリフですが、人権を無視した水中特攻部隊が石川県内でも配備されていたのです。

また、海軍小松飛行場からは神雷部隊が「桜花」と共に無謀な特攻、航空隊の予科練生約100人は人間機雷「伏龍隊」に組み込まれ横須賀に移動、実戦投入はなかったが、訓練中に多くの若者が生命を落としました。

（「いしかわの戦争と平和」編集委員）

非核石川の会リレーエッセー

対米従属の起源

西谷公作

最近、『対米従属の起源「一九五九年米機密文書」を読む』（谷川建司・須藤遙子 編訳、大月書店 2019.5.15発行、以下「機密文書」）を読む機会があった。米国立公文書館所蔵の機密解除文書「マーク・メイ報告書」（注1）の全訳、「精査報告」（注2）の部分訳及び編者・訳者の解説からなる四六判四一〇頁超の労作である。

何が書かれているか。やや長くなるが「まえがき」の一部を引用して紹介したい。

「マーク・メイ報告書には、日米安保条約改定前夜にアメリカが「文化」の名のもとにどのような政策を日本で行ったのかが生々しく書かれている。それを「文化工作」と言っても言いすぎではないだろう。文化センターにおけるセミナーや留学生奨学金制度といった穏やかなものから、影響力のある文化人・大学人への接触、関与を秘匿してのマスコミを利用した情報提供や映画製作という陰謀めいたものまで、その種類や範囲は相当幅広い」

私は特に、USIS-JAPAN（※）の第一ターゲットとなった日本の知識人層への工作が巧妙かつ系統的持続的に行われた事例に注目した。吉川幸次郎、大石良雄、堀江保蔵、高坂正顕、猪木正道など、七〇代以上の人なら一度は聞いたことがある名前かと思うが、いずれも一九五〇年代から六〇年代にかけて教授として在職した京都大学で〝左翼系教授陣と学生たち〟と闘った面々であり、機密文書の事例報告各所に登場する。彼らの多くはガリオア・プログラム、フルブライト、民間等の奨学金による米国留学経験者であり、帰国後も米国の最先端研究資料を優先的に供与されて名を遺した人たちであるが、米国側からの工作事例報告の内容は実に生々しく、半ば予想していたとはいえ慄然とさせられた。

米国立公文書館には「どんなに細かなメモでも保管されているという事実にまずは驚愕し、機密文書であってもいずれは必ず公開するという姿勢にも圧倒される。まさに民主主義・自由主義を掲げるアメリカの面目躍如である」（「あとがき」）との編訳者の感想も目にした。公文書の改ざんや廃棄を平然と行う非民主的で独裁的な政権の存続をゆるしている日本国民の一人として、忸怩たる思いに駆られた。

（注1）'Report on USIS-JAPAN by Mark A.May,June-July,1959'

（注2）'Inspection Report, USIS JAPAN May20,1961'

※「USIS（United States Information Service,アメリカ広報・文化交流局）とは、USIA（United States Information Agency,アメリカ広報・文化交流庁）の各国機関を指し、その業務内容はプロパガンダを含む広い意味での情報活動とされる。

〝ついに実現〟
子どもの医療費窓口無料化

中谷松助

ついに、志賀町で子どもの医療費窓口無料化が実現の運びになりました。今では、全国のほとんどの自治体が大なり小なり、基本的に実施している子どもの医療費窓口無料化、志賀町では九月の議会で小泉勝町長が来年度から準備でき次第、実施すると明言しました。

この間、多くの町民の皆さん方の声として五年半にわたり、ほとんどの議会で要求して参りました。担当課長は「一六回、質問がありましたが、これで私も地元で悪く言われないですみ

ます」とのこと。やはり当局さんも気になっていたようです。

思えばやはり、要求は実現するまでしつこくするものですね。また今次のコロナ禍が一つの契機にもなっているようです。

次は、学校の少人数学級の実現に向けて、皆さんと共に求めて参ります。応援よろしくお願い致します。もちろん、原発ゼロをめざすのは当然であります。

詩人会議かなざわ「独標」より

サイタ　サイタ

新保美恵子

予報通りに
今日も雨
なにもかもが
雨に打たれている

過去最多
感染者数も
死者数も
私は憶えられない

お散歩にも行けない
タタミに寝転んで
今日も
チョコと

四月から通院を始めた私の素顔を
医師は知らない
私もまた医師の顔を知らない
そのまま七月が終わって

マスクは私を覆い私を隠し
あなたを覆いあなたを隠し
私はうまく喋れない
患部がずるずると拡がっていく

公園にもコンビニにも
降りしきる通りにも誰もいない
ガラス戸に鼻をすり寄せて眺めている
確かめるように私を振り返って

降りはじめて降り続いて
感染者数と死者数が
並んでＴＶ画面に出ても
数えられない

サイタ　サイタ
全身を雨に打たせ
黄色のグラジオラスが揺れ
ばぉっと煙る中で大輪が騒めいている

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	集会・行事内容	会場
12	23	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園横入口
1	1	金・休日	10:00	核兵器廃絶元日署名	金沢市尾山町・尾山神社前
	6	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園横入口
	11	月・休日	14:00	非核の政府を求める会／結成35年記念・新春シンポジウム「核兵器禁止条約発効から完全廃絶を、被爆国の真価発揮のとき」	オンライン開催（詳しくは案内チラシを参照ください）
	17	日	10:00	核兵器禁止条約発効おめでとうアクション	金沢市青草町・近江町市場エムザ口附近
	20	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園横入口
	22	金	0:00	**核兵器禁止条約発効**	
				日本政府に核兵器禁止条約の署名と批准を求める署名運動中	
	30	土	15:00	日朝協会石川県支部総会	金沢市香林坊・石川県教育会館2階
2	3	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園横入口
	6	土	10:00	むぎわらぼうし例会・歴史紙芝居「戦いはまだ終わらない」	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階研修室
	11	木・休日	14:00	「建国記念の日」平和を守るつどい／講師　池内了さん	金沢市三社町・石川県女性センター2階集会室
	17	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園横入口
	20	土	13:30	労働学校　明日、未来を切り拓く学習会① 第1回講座　「労働運動」労働者教育協会　山田敬男さん	金沢市鞍月 地場産業振興センター新館第10研修室
3	13	土	13:30	労働学校　明日、未来を切り拓く学習会② 第2回講座　「経済学」金沢大学名誉教授　伍賀一道さん	金沢市鞍月 地場産業振興センター新館第12研修室
4	17	土	13:30	労働学校　明日、未来を切り拓く学習会③ 第3回講座　「哲学」関西勤労者教育協会　箕作勝利さん	金沢市鞍月 地場産業振興センター本館第７研修室

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日 18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デ― 12：00

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　年会費 2,000円　ゆうちょ銀行口座　00760－0－15689

いしかわの戦争遺跡めぐり⑮

フォトグラファー　中西　優

着弾地の観測所跡＝内灘町

夕日が美しい内灘海岸

能登半島の入り口にあり、美しい海岸線が広がる内灘町。全国的には戦後の米軍基地反対闘争のさきがけとなった「内灘闘争」の地としても知られています。

戦後、一九五二年に試射場の候補地として米軍による接収が明らかになると、地域住民による反対運動が拡大。「金は一年、土地は万年」をスローガンにデモや座り込みが続けられ、接収反対の世論が広がりました。

この運動は住民の声と運動が政治を動かしたと同時に、その後の基地反対闘争を勇気づけたという面で大きな意味を持っています。

一五回にわたり「いしかわの戦争遺跡めぐり」にお付き合いいただきありがとうございました。このコーナーは本号で一区切りとさせて頂きます。

県内の美しい風景のすぐそばに戦争の爪痕が残っていて、意識して語り継がなければ記憶の奥へ埋もれてしまうことをこのコーナーを通じて少しでも感じて頂ければ嬉しいです。

私も参加させていただいた戦争遺跡マップ『記憶の灯り　希望の宙へ』には、これまでご紹介したほかにもスポットが載っていますので、県内の戦跡めぐりの際にはぜひお役立てください。

編集室より

◎新型ウイルスで大混乱の一年だったが早や本年最終号。核兵器禁止条約が新年早々発効するのは今年最大の福音の一つであり、「発効おめでとうアクション」を知らせる号で締めくくれるのは本当に嬉しい。この人類史に刻まれる運動の成果は、やはり歴史を動かすのは市民のチカラに他ならないことを示すもの。このことを改めて確かめあって、新たな歴史のページを心豊かにめくろうではないか。（中）

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

広瀬勝子

子どもたちが学び、子どもたちが描いた被爆証言紙芝居「戦いはまだ終わらない」

一九八八年、金沢市立十一屋小学校六年一組（故・金森俊朗学級）の児童は、故・岩佐幹三氏（石川県原爆被災者友の会初代会長）より五時間に及ぶ授業で被爆証言と被爆者運動を聞き取り、四八枚の紙芝居を制作しました。その三二年前の紙芝居を元に、「平和の子ら」委員会が、二六枚（被爆体験編一七枚、戦後・被爆者運動編九枚）に再編したのが、紙芝居「戦いはまだ終わらない」です。

この紙芝居は「いのちの授業」で有名な金森俊朗氏による貴重な学習実践資料であるとともに、岩佐幹三氏の壮絶な被爆体験、戦後の被爆者運動を次代に継承するものとなっています。

◎詳細は同封チラシをご覧下さい。